

総合評価

受診施設名	京都市大塚児童館	施設種別	児童館 (旧体系：)
評価機関名	特定非営利活動法人京都府認知症グループホーム協議会		

令和3年2月11日

総 評	<p>京都市大塚児童館は、2000年4月1日に開設し今年で21年目を迎える児童館です。山科区北東部の大塚小学校敷地内に位置し、空（あき）教室を活用し整備された施設です。周辺は新しいマンションが建ち並ぶ一方、田や畑があり、のどかで静かな環境の中にあります。20年の歴史で培った地域との信頼関係や小学校区内に在ることに加え、法人のスケールメリットが活かされた児童館です。法人母体（洛和会ヘルスケアシステム）は創立70周年を迎え、法人理念と運営方針、に基づき、コーポレートスローガン「夢、そして誇り。この街で」を掲げ、SDGs（社会貢献活動）に取り組んでいます。児童館は、その傘下の子ども未来事業部、12か所の保育所・児童館等と組織的に事業を展開しています。また、児童館は独自の理念及び方針、スローガンに【はぐくむ】【ささえる】【つなげる】を掲げ、児童館の社会及び社会的取り決めを果たす役割を明らかにしています。月2回開催の「大塚こども食堂」や京都市東総合支援学校の中高生と取り組まれている「地域実践活動」や「共催事業」「共同研究会」は掲げた児童館の理念や方針、スローガンの実現を目標にした活動の一つです。「大塚こども食堂」は単に児童の食事提供が主目的ではなく、児童館の児童と地域のボランティアや高齢者との関わりを育み、地域の人達と共に居る空間を提供することを目的とされています。また、遊戯室の卓球台は、館内外の幅広い児童が仲間と「卓球」を楽しめるよう、設置されています。日頃の取組みには、視覚障がいのある人たちのスポーツとして卓球バレーを低学年の展開に導入されており、単にレクリエーションとして楽しむだけでなく、障がいのある人のスポーツを理解する視野を広げた活動に位置づけています。児童館で赤ちゃんから思春期児童そして大人まで、地域のさまざまな世代が出会い・ふれあう体験を通して、相互に支え合い安心して暮らせる「共生のまちづくり」の実現を児童館活動の目標に据えています。</p>
-----	---

●児童館活動の質の向上に向けた取り組み

職員研修が法人本部と子ども未来事業部門の傘下で一体的に取り組まれています。京都市児童館連盟や子ども未来事業部主催のキャリアパス研修等で職員は職種別・階層別・テーマ別研修等で、児童館職員として必要な様々な知識と技術を収得しています。また、館内研修で外部から講師を招聘し、「配慮を要する児童」や「虐待事例」を通して、虐待発生のメカニズム等を学んでいます。「技術・サービスの質向上把握シート」を使って職員一人ひとりに「あるべき姿」「現在の姿」「あるべき姿と現在の姿のギャップ」等を問いかけ、自己の年度教育計画の成果を確認する仕組みを構築しています。職員は、児童館の利用児童と地域の様々な世代が出会い・ふれあう体験を取り入れた「共生のまちづくり」の実現に向けた児童館の活動を通して、対人援助の知識と技術の多くを学んでいます。

●地域との交流・地域貢献 「共生のまちづくり」の取り組み

創立以来20年間、地域とともに歩んできた児童館であることを基盤に、学区ネットワークの構成メンバーの一員となり、大塚児童館運営協力会、地域の関係機関や団体等と協力関係や支援体制を構築し、地域と児童館の相互交流を促進させています。法人の医療・介護部門や子ども未来事業部門、傘下の十数か所の保育園や児童館、民間学童クラブ、子ども園療育等と連携し、地域の子育て親子や児童館利用児童のニーズに幅広く対応しています。また、職員は法人内の医療・介護・保育等の職員等と交流する機会にも恵まれています。

洛和ヘルスケア学会でも「共生のまちづくり」をテーマに、京都市東総合支援学校の地域実践活動や交流事業の取り組みを児童館利用の児童が共に取り組まれたことを発表されています。

●利用者の満足度の向上への取り組み

中・長期計画のスローガンに「大塚支え合い文化」（遠い親戚より近くの大塚）「親子が笑顔でいっぱいになれる児童館を」を掲げ、利用者の意向を取り入れた利用者本位のサービスを提供されています。「はぐくむ・ささえる・つなげる」を児童館の役割と主な活動内容とし、児童館事業と学童クラブ事業に地域の子育て関係機関や組織の協力を得ながら、児童館児童の活動の内容を活気あるものにしていきます。学童クラブの保護者に対して、「保護者満足度アンケート／保護者セグメント調査」を行い、保護者のニーズや要望を行事等のプログラムに盛り込んでいきます。「児童館であそぼう！」として地域の乳幼児親子に対する講演会や講師招聘による様々な遊びを企画し、ホームページや広報誌で参加を呼びかけています。誰もが自由に参加できる「児童館であそぼう！」には近隣の保育園職員、法人の音楽療法士、大学生等がボランティアで関わっています。「夏まつり」等を地域の関係機関と共同で開催には積極的に参加しています。

特に良かった点(※)

	<p>●第三者評価の結果を質の向上に活用 30年度の評価の結果が児童館事業の質の向上に活用されていました。①児童館の理念及び方針が、児童福祉法や児童の権利に関する条約に基づいて策定されています。②職員会議等の検討会議の記録や日誌、引継ぎノート、相談記録等の記録が整備されています。③職員研修の履修報告書をファイル化し、伝達研修の実施や報告書の閲覧等で研修の成果職員間で共有されました。④行事の実施計画書や企画書及び、実施報告書と実施後のアンケート調査等を行い、PDCAマネジメントサイクルを通して、事業を持続的に改善し発展させています。</p>
<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p>●実習生受け入れマニュアルと受け入れに関する姿勢を明文化し、法人の看護学科や助産学科の学生、東総合支援学校の地域実践、中学校のチャレンジ体験等の実習生を積極的に受け入れていますが、実習担当の職員が実習指導者のための研修を履修されることが望まれます。子ども未来事業部門主導のキャリアパス研修に実習指導者のためプログラムを組み込まれてはいかがでしょう。</p> <p>●保護者自らが創造力を発揮し主体的に児童館のイベント企画や運営等を行うことは無いと伺いました。児童館が企画・運営された各種のイベントにはボランティアの方々と乳幼児保護者が協力的に参加されていますので、保護者の得意とする事や場面で、保護者が参画できる様、児童館から働きかけてはいかがでしょう。</p> <p>●アセスメントの実施について 児童館利用の児童の地域における生活背景は一様ではなく、地域の子育て親子や児童館利用の小学生から高校生までの幅広い児童のニーズに沿った児童館事業の展開を可能にするには、来館希望の乳幼児親子や児童館利用の児童の一人ひとりの生活課題やニーズ等を把握し、それに職員の力量や地域の中高生のパワーを活用されることをお勧めいたします。それには、事業計画や個々の支援計画を作成する際に、所定のアセスメントシートを使ったアセスメントの実施をお勧めいたします。アセスメントの結果から児童館の利理者の思いや願いを引き出すことが可能となり、職員や中高生の持てる力を引き出すことにも繋がると考えます。児童館版のアセスメントシートを作成されてはいかがでしょう。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。